

2024(令和6)年度 三同教活動の総括

三同教は、基本的人権の尊重、自由と平等を基調とし、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の解決をめざし、市民自らが主体となって人権尊重のまちづくりを進めることを目的に創立しました。

今年度は、WEB上の誹謗や中傷、出自の晒しなど、人権侵害の問題について部落差別を中心に差別の実態を正しく捉える取組を推進し、研究大会をはじめとして各地区の活動や専門部会の活動を展開しました。

実施に当たっては、「With(ともに) & Open(ひらく)」を合言葉に、市民が主体的に人権課題に取り組むことができるように、支援してきました。

以下、主な活動を取り上げ総括します。

1 学習から人権意識を高め人権感覚を磨き人権課題を解決する力を習得する活動

①研究大会では

昨年度に引き続き、報告者、参加者の自主的学びを推進するとともに、学校教育の分科会において、報告数を絞り、参加者の意見交流や討議の時間を充実させることでより深い学びと、参加者同士の繋がりを強いものにすることができました。その結果、参加者の課題解決意識を向上させるとともに、各所属団体での活動につながることで、三同教の基盤を固めることができました。

また、特別分科会では、新たな運営方法として組織以外の方に司会・報告を担っていただき、多文化共生について、三木市の現状と新たな課題について共有することができました。

大会としては、事後アンケートに示されたように、参加者の満足度が高く、充実した学びの場にすることができました。課題としては、幅広く参加者を増やしていく工夫や分科会でのICT機器の活用など、さらなる改善が望まれます。

さらに、東人教研究大会では、社会教育分野での三木市の報告が好評を得るなど、上部の研究大会にも積極的に協力参加しました。

②専門部会では

各部会で部員同士の交流を図りながら、新たな課題も取り上げ、学びを深めることができました。また、実践報告を活かし交流を行った部会では、さらに充実した学びができました。

③住民学習では

各自治会では、これまでの経験を活かし、多様な形態で学習会が行われています。また、多くの地区で「新たな表出のしかたをしている部落差別」の学習が活発に行われ、インターネットが大きな人権課題の一つになっているという人権意識を向上させることにつながりました。課題としては、若年層の参加が少ないことや参加者の固定化があります。今後も、さらに意見交流を深めるような工夫を促し、地域の人権リーダーの育成と活用を進めるとともに、参加呼びかけを工夫していきます。

④じんけんフィールドワークでは

戦後80年を前に、戦争に関する人権施設を訪問しました。また、教育現場に活かし、地元三木の人権の歴史を学ぶフィールドワークも行うことができました。アンケート結果では、2回とも参加者が現地での学びに満足された様子が伺え、深い学びができました。今後も、市民のニーズに合わせた企画を行い、人権課題への関心を高めていきます。

2 人権研修会などをサポートする活動

① 学習支援補助や講師依頼など、多くの団体から要請を受け、効果的な支援ができました。この支援活動を周知し、各団体の人権研修を充実させていきます。

② 啓発ラジオ放送では、市内で活動される団体や個人など、さまざまな方に出演いただきました。今後も、市民の方の出演を中心に人権課題を身近なものにとらえてもらえるように企画をしていきます。

3 安心して暮らせる社会をめざす活動

市からの委託を受けた「インターネット差別書き込みモニタリング事業」は、差別書き込みの削除要請を行い、差別の拡散の抑止に努めました。さらに、この活動内容や成果を市民に発信していくことで、市民の意識向上につなげていきます。

1年の活動を通して、参加された皆さんの「人権課題の解決」への強い想いを感じることができました。これは、三同教の活動の原点であり、これからも継承して新たな飛躍につなげていきます。以上、2024(令和6)年度の三同教活動の総括とします。